

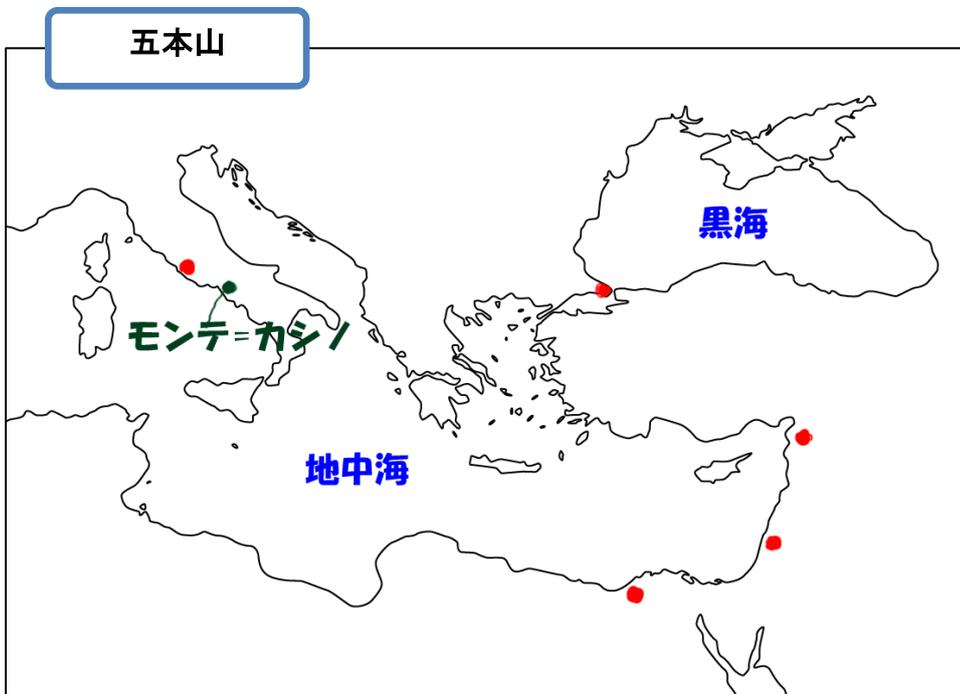
ローマ＝カトリック教会の成長

・五本山（ローマ帝政末期＝4世紀ごろ）

- （ ）
- （ ）
- アンティオキア
- イェルサレム
- アレキサンドリア

＊首位権をローマとコンスタンティノーブルで争う。

地図の赤印に五本山の位置をそれぞれ書き入れよう！



- ・西ローマ帝国滅亡後、ローマ教会はコンスタンティノーブル教会から分離し、独自の活動を始める。
- ・6世紀末、教皇グレゴリウス1世がゲルマン人へ熱心にカトリックを布教。
- ・6世紀（ ）運動
 - ・6世紀に（ ）がベネディクトゥスにより（ ）に開かれる。
 - ・厳しい戒律…「清貧・純潔・服従」、「祈り、かつ働け」
- ・726年 東ローマ皇帝（ ）が（ ）を發布。
 - ・初期の教理に反するため
 - ・イスラーム教からの偶像崇拜の非難に対抗するため

⇒ゲルマン人への布教に聖像を必要としていたローマ教会は反発、両教会の対立と分裂を強める。

↓

東ローマ帝国に対抗できる強力な政治勢力を求める。

↓

732年 フランク王国のカール＝マルテルが（ ）でイスラーム勢を撃退し、西方キリスト教世界を守る。

↓

ピピンの王位継承（カロリング朝）を認める。

↓

800年 カール大帝ヘレオ3世が戴冠し、東ローマ帝国（ビザンツ帝国）に対抗。

↓

1054年 東西教会の分裂